

回答番号	＜いただいたご意見、ご質問＞	＜回答＞	担当課
1	笠原小学校の外壁アスベスト除去工事と仮設校舎建設工事の工期が重なっていますがアスベスト除去を行なっている同じ敷地内で半年間子供たちは授業を受けるのでしょうか？ 外壁アスベストとのことで安全性をどのように保ちながら工事を進めるのか 子どもへの健康被害をかなり心配しています。 そういった説明は保護者に対して行わないのでしょうか？	① アスベスト除去工事につきましては、笠原小学校の校舎の一部の外壁にアスベスト塗材が使用されているため、令和8年4月の新校舎開校を目指すため、今年度除去工事を行います。本工事の工法は、外壁アスベストが飛散しない安全な工法として、平成31年度に北栄小学校の工事、次に、昭和小学校、陶都中学校、令和5年度は、根本小学校と笠原小学校の工事を予定しております。施工業者が決まりしだい詳細の工事日程をお知らせ致します。 ② 仮設校舎につきましては、笠原中学校に建設します。アスベスト除去工事とは、違う敷地にはなりますが、アスベスト除去工事同様、ご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願い致します。	教育総務課
	いつも子どもたちのためにご尽力いただき、有難うございます。笠原小中学校の建設にあたり、ご意見、ご質問を受け付けているということで、記入させていただきます。 まず1つ目 「制服」について ここ最近多治見市の中学校がブレザーに変わっているようですが、聞こえてくる声として購入額が学生服より高くなり、学生服よりお金がかかる、という声や、ジェンダーに配慮して、女子生徒の選択肢として、ズボンを選ぶが、男子生徒への配慮はどうか？と。 これから多様性が求められる中、制服にこだわることで、かえってジェンダーを意識してしまうと思います。また現在でも夏の暑い時期にジャージ登校をしているのであれば、わざわざ制服を着なくても、ジャージで過ごせばいいと思います。冬を寒い中、防寒対策を考えればスカートを履いていなくても、いいと思います。更衣室がない中、ジャージであれば性別関係なく意識することもないのではと思います。ただ、式典など正装をきることを学ぶために、ジャケットなど、黒や紺色など決めて用意するなどしていけば、いいのではないかと思います。 個人的には、制服はいらないと思ってます。制服があることで、性別を意識してしまうと考えています。また、成長期似合った服を着られるようになります。本来ジャージも決めてしまうのではなく、小学校のときのように自由でもいいと思います。全て決めてしまうことで、考える力も弱くなると思っています。自主性を育て、多様性を認める力も、制服一つジャージ一つかもしれませんが、培われると思います。 もしくは、制服、ジャージ、私服と選択できるといいと思います。 また、これは少し話がずれることかもしれませんが、制服を始め学校用品(ジャージ、上履き、靴)の指定をやめてほしいです。今だと、白い靴で白い靴下でなくてはダメ、というのもどういった根拠の中にあるのかわかりません。 清潔さと言うなら、白は汚れが目立ちかえって不潔に見えます。それよりも黒のほうが汚れが目立ちにくいと思います。 最近他の中学でも、自由になってきています。靴の色や靴下の色、髪型で人が悪くなるわけではないと思います。 子どもたちの何を尊重するのか、人を育てるのに格好ばかりに囚われすぎて、本質が見えなくなることは本末転倒だと思います。 また経済的なこと考えると今はネットなどで学校用品を指定にしていなければやすく購入することもできます。実際に色々な保護者の方とお話すると、そういったものが高いと言う声があります。私自身もそう思います。色々選べれる時代なのに、わざわざ高いものを買わなければいけないのはどうなのかと思います。昔からそうだったという時代ではないと思います。	社会には、様々な価値観、考え方が広がってきているため、学校側が昔からのやり方を児童生徒や保護者に押し付けるのではなく、広く意見を募って、民主的に笠原義務教育学校の方向性を見出していく必要があると考えています。 制服の有無を含め、義務教育学校化に伴う制服の変更などについて、そのメリットやデメリットを踏まえて児童生徒やその保護者、学校関係者等にアンケートを実施し、今後の在り方を検討していきます。	教育相談室 教育推進課
2	2つ目 「自校給食」について 先日、保護者の方と話しているときに、新校舎になったら自校給食をやめるような話を聞きましたが、なぜでしょうか？今まで、笠原のいいところは自校給食で、温かいご飯を食べれるところで、食育の観点からもとてもいいことだったのに、なぜやめる必要があるのでしょうか？ 新しい学校は大人のためではなく、これから子どもたちのためのものであるならば、温かいご飯を当たり前に見える自校給食をなくすべきではないと思います。私も以前学校で働いていましたが、給食センターから運ばれてくる給食は食べる頃には冷めていて、どこか味気なかった気がします。そのあと勤めた学校が自校給食でしたが、やはり美味しかったです。 給食については、子どもたちのことを一番に考えて自校給食を検討してほしいです。 このことは強く希望します。	調理場整備については、調理場施設の老朽化・アレルギー対応の早期実現・児童生徒の減少が進む中で、長期的な視点に立った公共施設の在り方を踏まえ、平成30年度に「学校給食基本方針」の調理場施設整備方針を「単独・近接校対応調理場の整備」から「センター方式調理場の整備」に変更しました。このような背景のもと、令和2年度に笠原小学校及び笠原中学校の調理場は建替え時に閉鎖することを決定しました。 (仮称)笠原小中学校の給食提供は、既存共同調理場の受配校組替えにより昭和小学校近接校対応調理場から配送します。なお、昭和小学校近接校対応調理場から運ぶ給食は、保温・保冷のできる二重食缶を採用し、引き続きおいしい給食を提供するとともに、アレルギー対応除去食に対応します。	食育推進課

	3つ目 「教室配置」について 以前子供のロイロノートに新校舎の案の動画がありましたが、それを見ていて空き教室のないのが気になりました。子供が増えないということなのか、どの学年も2クラスずつの教室。また、会議室など大きい教室はありましたが、発達障がいの子だけではないですが、個別支援やクールダウンができるようなちょっとした小さな教室がなかったように感じました。見た目にはいい感じはしましたが、子どもたちが過ごしやすいのかどうか、少し疑問に感じました。色々と考えているのとはおもいますが、実際に使うのは子どもたちであり、そこで働く先生たちのことを考えると、子どもたちの意見や先生たちの意見なども取り入れたりしてもいるのかな？と思いました。 メールではうまく言葉にまとめることが難しく、どこまで伝わるのかわかりませんが、新校舎建設にあたり疑問があるのは事実です。幼、小、中のPTAの代表の方には話が行っているのかもしれませんが、ほとんどの保護者がどういう話になっているのか、知らないこと。新しく入学してくる子どもたちの保護者よりも、今通っている子どもたちの保護者ほうが、必要なものやそうでないものをより感じていると思います。果たして、色々な保護者の意見が公平に扱われているのかは疑問です。 実際に昨年制服のことで小学校の先生に話をしたときには、「保護者の方にアンケートを取る予定です」と言われたまま、未だに行われていません。 ペーパーレス化なのか、アンケートで「制服の有無について」「自校給食の有無について」などみんなに聞く方法は他にもあるように感じますが、こういったメールや電話の受付というのは、言ってこなかったらそれは、承諾したことと同じように扱われているようで、本当に意見を聞いてもらえているように感じない気がしました。 様々な意見をまとめるのは大変なことだと言うことは十分承知していますが、もう少し開かれた、風通しのいい検討がなされるような配慮をしていただけたらと思います。 ここに書いた意見や要望も本当に吸い上げてもらえるのか、疑問です。 これから新しい時代になるなか、いいところは残し、変えるべきことは変えていって、今一度、学校建設にあたり、現在通っている保護者の方にもアンケートなり意見を取ってほしいと思います。そして、子供たちも保護者も「笠原の学校に通えてよかった」と言ってもらえるような、そんな今までにはない学校をつくってほしいです。切にお願いします。	① クラス数につきましては、多治見市の出生者数等を基に令和15年まで児童生徒数を推計しております。(多治見市立(仮称)笠原義務教育学校整備基本構想(令和3年9月)参照)。生徒数は減少傾向ではありますが、1学年2クラスで推計しており、設計でのクラス数に反映しております。なお、増室が必要となった場合につきましては、2階に普通教室と同設備の多目的室が2室あり、更に不足した場合は、2・3階のWS(ワークスペース)に間仕切りを設置し対応することとなります。 ② 個別支援やクールダウンができる部屋につきましては、少人数教室が6室、保健室に面した場所に相談室を2室整備し活用していく計画としております。 ③ 生徒、先生方の意見につきましては、多治見市立(仮称)笠原義務教育学校整備基本構想(令和3年9月)作成時に生徒、先生にアンケートを行い、設計条件として繁荣しております。設計段階においても、先生の意見を随時聞きながら進めております。 ④制服等について児童生徒やその保護者にアンケートを実施するとともに、進捗状況についてPTA代表以外の保護者の方にも随時広報していくよう進めてまいります。	教育総務課 教育推進課
3	笠原地区で、多治見市の一貫校を設ける理由、メリット、経緯を教えてください	笠原義務教育学校は、人口減少による統廃合を目的としたものではなく、従来から幼保小中一貫教育を推進してきた笠原校区において一貫教育の効果をさらに昇華させることが理由となります。また、笠原地区は保育園・幼稚園・小学校・中学校が各1校ということで、義務教育学校にする環境に適していたからです。 メリットとしては次の通りです。 (学力について) ・小学生から教科担任制を取り入れることで、教科の専門性の高い教員による継続的で質の高い学習ができます。小中学校の区切りが緩やかになることで、柔軟にカリキュラムを組むことができます。 (子どもにとって) ・小学校から中学校へ進学する際の変化に対応できないリスクを解消することが期待できます。また、小中教員間の情報共有ができるため、教員によるサポート体制が強化されるだけでなく、支援が必要な児童生徒へのケアも充実できます。 (教員について) ・教育相談や特別支援の小中連携ができる。また、専門ではない教科の疑問点について、専門の教員に質問しやすい環境ができることで、教員の専門性を高めることができます。	教育推進課
4	保育園と小学校に通うこどもがおり、工事期間中に二人とも進学することになるが、制服や体操服がどのタイミングで切り替わるのか、時期によっては買いなおしになるのではという不安もあるため、早めに教えていただきたい。	・笠原幼保小中一貫教育研究会を設置し、委員である地域の代表者や幼保小中学校の保護者会長から義務教育学校に関する事項について意見をいただきながら検討を進めているところです。制服や体操服についても、研究会や保護者等のアンケートを基に決定し、随時報告させていただきます。	教育相談室 教育推進課

5	自宅が笠原中学校の上側にある団地のため、小学校まで徒歩約1時間歩くことになる。9年間歩いて登校するので、すごく心配である。通学路は2月頃に決定と伺っているが、誰がどういう基準で、どれだけの確信を持って決められるのかがいたい	・教育委員会と笠原小中学校が、危険個所の把握をしつつ、具体的な通学路の調査を実施していきます。保護者の意見も伺いながら通学路を決定していきます。令和6年度から笠原小学校の児童が笠原中学校の敷地内の仮設校舎に通う際の通学路は、11月頃決定予定です。義務教育学校後の通学路は、現在の小学校の通学路が基本となります。	教育相談室 教育推進課
6	・自身が笠原中学校時代には、校内で荒れた時期があった。小中一貫校となった場合、先輩文化が残っていたりしないか不安に思うことがある。小、中学生の交流が上手いっている他市のケースなどを参考にしているか。 ・子どもの環境も変わるため、心理的に不安定になる子がいると思われる。心のケアができるシステムづくりを検討いただけると子ども、親とも安心できる。	・これまで、他市の義務教育学校の視察に行っており、昨年度も長浜市と羽曳野市の学校へ視察に行っています。ハード面・ソフト面において参考に出来るよう検討を進めています。視察した学校では、心配されているような事例はないと聞いています。 ・今後も参考になる学校を視察していく予定で、健全、安全な運営ができるように考えています。 ・ハード面においては、子ども達の過ごす空間を広めにとり、個々のパーソナルスペース(安心出来る居場所)が出来るよう工夫をしています。 ・来年度から、小学生は中学校の敷地内にある仮設校舎に通うことになるため、子ども達が徐々に義務教育学校の仕組みに慣れるように学校行事を計画していきます。 ・小中教員間の情報共有ができるため、教員によるサポートが強化でき、児童生徒の心のケアが充実できると考えています。	教育相談室 教育推進課
7	学童の教室について 自分の娘を入れる予定です。 狭い教室に沢山の子供が詰め込まれている状況の学童もあるようです。 学童が嫌で小学校に行きたくなくなる子供の話も耳にしました。笠原小学校の現在の学童はそうではないかもしれませんが、新しい小学校でも学童で子供達が安心して過ごせる十分なスペース、充実した活動が出来るように想定した設備を整えて頂きたいです。よろしくお願い致します。	・設計段階ではありますが、現学童保育のスペースより広く取ってあることから十分活動はできると考えられます。	教育推進課 教育総務課
8	仮設校舎となった場合、授業でのプール利用はどのようか。	・仮設校舎の間、小学生は中学校のプールを使用する予定で、高さを調整するなどして、配慮し使用します。	教育研究所 教育推進課
9	・解体工事のアスベスト除去は、水を掛けながら少しずつ削るとのことだが、そういう機械があるのか。安全面は、100%大丈夫なのか。 ・アスベスト工事の前倒しとの説明があったが、解体工事も前倒しなのか。	・実際に、陶都中学校でその機械を使用して工事をした事例があります。機械で削り、機械で水を掛けながら削ったアスベストを吸い込んで除去をします。外部には飛散しない機械を使用しており、問題ないと考えています。 ・解体工事は、児童が移動後に行う。アスベスト除去工事だけ、前倒しで行い、解体工事は予定通り令和6年1月から実施します。	教育総務課
10	幼稚園がまだ保育中ということもあり、工事中の防音対策について教えていただきたい。(ずっと工事の音が続くのか、給食中は工事を中止するのか等)。音の基準や、計測器はあるのか。	・足場を立てて、防音シートを取付けして工事を行います。ある程度、音は抑えられますが、音はでてしまいます。音の計測器は使用しませんが、騒音の大きさについては、園の先生と相談し、園の意向を優先して工事を行います。	教育総務課
11	建設工事中の工事車両の動きについて聞きたい。	・小学校前の市道をメインに工事車両が通ることになると思います。市道拡幅工事も併せて行うため、幼稚園の横の道路を通ることになります。大変狭いため、拡幅してから通れるようにして、安全第一で進めていくよう検討しています。	教育総務課